

東京・山梨地区会だより

平成 30 年度東京・山梨地区会総会研修会に参加して



NHO 甲府病院

秋山 斐香

令和元年 7 月 13 日(土)国立病院機構東京医療センターにおいて、平成 30 年度国臨協関信支部東京・山梨地区会定期総会・研修会が開催され、当日は多数の会員参加がありました。来賓として国臨協関信支部から岩崎支部長のご臨席を賜りました。

始めに研修会では「国際的な臨床検査の標準化・ハーモナイゼーション」についてロシュ・ダイアグノスティックス株式会社の藤井隆行氏にご講演頂きました。診療科を問わず検査する頻度が非常に多い ALP、LD は 2020 年 4 月から常用基準法への改定が始まります。改定の意義や検査値の変動等、検査室から臨床医へ説明を行う責任があるため、早急な準備と対応が必要だと感じました。

次に「B 型肝炎ウイルス再活性化対策とリスクマネジメント」について富士レビオの吉尾仁美氏にご講演いただきました。免疫抑制・化学療法により発症する B 型肝炎対策ガイドライン等、詳しく説明を頂き日常検査での検査方法の選択の重要性を学びました。続いて、「連絡事項ならび会員の皆様に向けて」と題し、北沢敏男臨床検査専門職からご講演を頂きました。国立病院機構の現状や認定資格の取得状況を聴講し、自己研鑽の重要

性を強く感じました。

定期総会では平成 30 年度の各種報告、次年度の事業方針・会計予算などが審議され会員の承諾をもって無事終了致しました。

定期総会・研修会終了後には場所を移し懇親会が行われました。他施設の先輩方との交流は良い刺激となりました。また、帰りの特急あずさが運休という惨事のため、3 次会まで参加できたのはとても貴重な思い出となりました。

最後になりますが、講演して頂いた北沢敏男臨床検査専門職、藤井隆行氏、吉尾仁美氏、岩崎支部長、ならびに東京・山梨地区会役員の皆様に心より御礼申し上げます。

